

提出された意見と教育委員会の考え

【小学校の適正化について】

	意見等の概要	教育委員会の考え
再編について	平沢小学校と院内小学校の統合は仕方ないが金浦小学校と院内小学校は生徒数に大差なく今後、教育の観点から金浦地域から不満ないか、出た場合は象潟か仁賀保の小学校か金浦地域の住民にアンケートをして決定するのも民意の上で大切ではないか。	金浦地域の皆さんから、金浦小学校を存続させることや、統合しないことについて不満等が寄せられた場合は、今後の計画見直しの際に再度検討することになります。
空き校舎の活用について	院内小学校の敷地については、案としてドッグランなどの施設を整備すれば象潟漁港の猫の保護活動とともに動物に優しい町として脚光をあびるのではないのでしょうか。距離的にも由利本荘市からの利用者も見込めます。 院内小学校近辺の地域では数件に一匹の割合で犬を飼っており犬の散歩中によるコミュニケーションも盛んです。	統合後の学校施設の利活用については、公共施設等総合管理計画の中で市有施設全体として、検討していく必要があります。 ご提案のご意見も含めどのように活用していくのか検討して参ります。

【中学校の適正化について】

	意見等の概要	教育委員会の考え
再編について	<p>(1) 場所 仁賀保中学校が適所と考える</p> <p>(2) 理由</p> <p>ア.災害リスク～最優先事項</p> <p>東日本大震災や今年の能登半島地震などが発生し秋田沖も空白地帯としていつ発生してもおかしくないが、子供の命を守る観点及び避難場所としても活用される学校は特に安全第一である。</p> <p>特に日本海に面するにかほ市は、地震発生時に被害が多数出る津波リスクを考慮しなければならない。能登半島地震の際に避難勧告が出されたが象潟地域は全て避難勧告が出されている。また象潟は鳥海山噴火リスクも山に近い分、噴石等リスクが高い。過去にも象潟地震が発生している。仁賀保中学校は津波リスクは無く安全である。</p> <p>東日本大震災後の学校整備場所について子供の命を確実に守るため原則、学校施設は津波の被害を受けない場所に建築するとの提言もある。</p> <p>イ.環境</p> <p>仁賀保中学校は、体育館は市内一番の広さを誇りグラウンドも校舎に隣接し広大である。駐車場も広い。スクールバスも円滑に駐車できるスペースがある。</p>	<p>統合中学校の位置は、令和9年度までを目途に象潟中学校か仁賀保中学校のどちらかに、決定することとしています。</p> <p>その際には、通学距離やその手段、生徒数、校舎等の状況や学校周辺施設の配置、災害リスクなど多くの視点、観点からの判断が必要になります。</p> <p>選定に至るまでは、様々な観点から情報収集と分析を行っていきます。</p> <p>各学校施設にはそれぞれ利点・特徴があるものと考えます。施設面での長所短所を比較検討し、子どもたちにとって最適と思われる場所を検討して参ります。</p>

	意見等の概要	教育委員会の考え
	<p>ウ.若者支援住宅との関連～人口対策 平沢地域に若者支援住宅が計画されているが、学校の近接はその観点からも重要である。 ※ 由利本荘市は、TDKの寮建設場所に統合小学校、病院建設など一体化したまちづくりをしている。</p> <p>エ.クラブ活動 部活は、今後地域エリアでのエリア活動となる。現在、野球部は仁賀保と矢島中学校と一緒に活動しているが、今後は更に本荘由利地域としての部活活動が予想される（由利本荘市に近い方が良い）。</p> <p>オ.その他 ・現在及び将来の推定等によっても仁賀保地域の生徒数が一番多い。 ・釜ヶ台地域が一番遠方である。上浜地域にはインターチェンジも出来、利便性が良くなる。 ・象潟中学校は、空き舎後の活用がしやすい</p> <p>[案1] 仁賀保高校の移転 現在の場所は、駅から遠く不便である（由利本荘市の父母がよく話しており定員減の要素のひとつである）。象潟駅を改築して武道島側にも乗り場が出来ればより近くなる。 仁賀保高校は市内に一つしかない高校なので存続は必要である。羽越本線の利用者増にも繋がる。</p>	<p>人口減少対策の成果がでるのは、今後だと思われますので、決定に至るまで地域の人口や児童数・生徒数などを注視して参ります。</p> <p>現在の部活動の状況を見ますと、他校との合同チームで大会に参加している競技も見られます。今後、適正化（統合）によって生徒数が増え、単独チームで試合に参加する可能性もあります。また、部活動の種目についても検討していく必要があります</p> <p>具体的な提案をしていただきありがとうございます。統合中学校の位置は、令和9年度までを目途に象潟中学校か仁賀保中学校のどちらかに、決定することとしています。 その際には、通学距離や通学手段、生徒数、設備の状況や周辺施設の配置、防災リスクなど多くの視点、観点からの判断が必要になります。 選定に至るまでは、様々な観点から情報収集と分析を行っていきます。</p>

	意見等の概要	教育委員会の考え
	<p>[案2] 古くなった郷土資料館や象潟図書館、公民館及び池田修三美術館として移転活用</p> <p>・仁賀保中学校周辺は余剰地が多くあり、将来小学校が一つになった場合を建設が安価に支障なく整備できる。</p>	<p>各学校施設にはそれぞれ利点・特徴があるものと考えます。施設面での長所短所を比較検討し、子どもたちにとって最適と思われる場所を検討して参ります。</p>

【全般について】

	意見等の概要	教育委員会の考え
全般について	<p>基本計画を拝見し、全体的に数の調整に重点が置かれている計画のみになっていることに不安を感じた。将来を担う人材として、子どもたちにどういった環境を享受できるようにするかということに対する具体案も並行して検討することが必要だと思う。</p> <p>子育て支援に力を入れているのは魅力だが、教育環境に魅力を感じることが出来ないと、ここで子育てをしたいと積極的に考える人口を増やすことは難しいと思う。</p> <p>他自治体の例を参考に、にかほ市でも活力ある大人を育てるためのビジョンをもっと話し合ってほしい。</p> <p>例えば、金浦小・中学校は一貫教育を試験的に実施するのにちょうどよい環境であるが、単純な数の計算しか考えられていないのが勿体ない。</p>	<p>今回の基本計画は、少子化の進行が、予測以上の速度で進んでいる状況にあり、複式学級の抑制や学年規模の適正人数化を主とした計画案としております。</p> <p>本市の教育方針、方向性は教育大綱にまとめており、この基本計画、再編計画と並行して教育環境を整えて参ります。</p> <p>にかほ市は子育て支援に力を入れており、いろいろな制度を創設し、子育て環境を充実させる施策を進めています。これらに加え魅力ある教育環境を今後も提供するための適正化であると考えています。</p> <p>金浦小・中学校は、隣接型の小中一貫校として</p>

	意見等の概要	教育委員会の考え
		<p>これまでも取り組んできております。今後も少数化が進み、特に中学校では校内行事や部活動といった活動に制約が生じるなど、教育環境に課題が生じている状況を踏まえた結果となっております。</p>